

【現状と課題】

日高地域の一般民有林では、急峻な地形環境や列状間伐への理解不足から風倒被害などの否定的な意見が多く、従来から切捨による定性間伐が主体となっており、特に日高町日高地区においては、搬出間伐の実績が全くありませんでした。

また、大手企業によるバイオマス発電の増設や平取町のバイオマス産業都市構想が動き出しており、末木枝条等の一層の供給拡大が期待されている中、末木枝条等の供給も少なく、無償での引取りとなっている。

【これまでの取組・成果】

①林分現況の把握

- ドローンによる現況把握により3D画像の作成
- 間伐予定地において標準地調査の実施

②森林所有者への戸別訪問

- 森林室・森林組合とともに搬出(列状)間伐や国有林野事業について紹介

③国有林野事業現地見学会の開催

- 国有林の列状間伐事業地において森林所有者が抱えている不安感などを払拭するための勉強会を実施

④民有林連携に関する勉強会の実施

- 森林管理署職員の民有林事業の理解度向上



- ★日高地区初の搬出間伐の実施 (H30)
- ★5カ年計画による約42haの実施見込

【目標】

日高地域の民有林における搬出(列状)間伐の推進と
地域における原木や末木枝条等の一層の供給量の拡大

【令和元年度の取組予定】

施業の見える化

①森林所有者への周知

平成30年度間伐実施箇所の結果を分析するとともに、搬出(列状)間伐実施予定者へ周知する

②国有林野事業見学会の実施

国有林における間伐施業実施箇所等をサポートチームの案内により見学会を開催し搬出(列状)間伐の理解を深める。また、民有林所有者の抱える悩みや問題等の把握のためアンケートの実施をする

③GPS及びドローンの活用

森林所有者の森林現況、路網についてGPS及びドローンを活用した現況の把握に努める。また、ドローン画像を3D化し、より分かりやすい情報を提供する

連携協力体制の強化

森林室平取事務所、沙流川森林組合と連携協力し、末木枝条の利用の可能性と搬出(列状)間伐の普及推進に向けた取組を実施する



民有地の3D画像



森林所有者現地見学会



ドローンによる現況把握

【今後の取組】

①森林所有者の搬出(列状)間伐への理解を深め、施業の集約化に向けて、更なる普及推進を図り、実施率の向上を目指します。

②バイオマス材の供給拡大は地元自治体はもとより、バイオマス発電事業者にとっても重要なことから、森林所有者への情報提供に取り組んでいきます。
さらには、民有林施業の集約化と国有林末木枝条情報の提供・共有により売却実現を目指します。

③今後とも各関係機関との連携・協力を一層強め、民有林と一体となり搬出(列状)間伐の普及推進に取り組んでいきます

令和元年度 取組結果

「日高地域における林業の活性化へ向けた取り組みについて」

～地域課題である搬出間伐・列状間伐の普及推進～

日高北部森林管理署

目 標

日高地域の民有林における搬出(列状)間伐の推進と 地域における原木や末木枝条等の一層の供給量の拡大

【令和元年度 の取組】	【取 組 の 内 容】	【取組の成果】
森林所有者への周知とGPS及びドローンの活用	搬出(列状)間伐の導入推進のため、森林室平取事務所とともに日高町内の指導林家等へ、地域課題解決に向けた取組の趣旨、内容等を説明し、意見交換を行った。また、民有林の間伐予定地において、ドローンによる林分、既設森林作業道の状況把握を行い、今後の伐採方法等の検討を行った。	 森林所有者には列状間伐の経済性や効率性についての理解は深まってきているが、風倒被害や間伐効果に不安が残っていることが分かった。 また、ドローンによる林分把握は好評を得ており更なる活用方法の検討が必要。
国有林野事業見学会の実施	9月3日に森林所有者、日高町林務担当者を対象として、国有林の保育間伐実行箇所において見学会を実施し、列状間伐によるメリットとして作業効率や安全性が高いこと、デメリットとして風倒被害や画一的な施業による森林への影響が考えられることについて説明と意見交換を行った。	 今後も引き続き見学会開催の要望をいただいている。 また、列状間伐箇所の見学・意見交換により、森林所有者の風倒被害等への不安の払拭へつながってきている。
民有林施業の集約化と国有林末木枝条情報の提供・共有による売却の実現	国有林における林地未利用材の入札状況及び結果等の情報を森林室平取事務所、沙流川森林組合へ情報提供を行いながら、民有林における現状と課題について意見交換を行った。 また、これらの売却へ向けた取組として地域の現状について木材搬出事業者への情報提供を行った。	 末木枝条の売却とはならなかったが、国有林と民有林の林地未利用材を同業者により同時に運搬することができ、集約化のメリットを確認することができた。

目標に対する達成度

森林所有者への戸別訪問や見学会等の実施などにより、搬出(列状)間伐の有効性の理解・賛同が広まり、列状間伐の5カ年計画の作成へとつながってきている。
一方、列状間伐による風倒被害や画一的な施業による森林への影響などの不安がある森林所有者がまだ多くいることから継続した取組が必要である。

次年度の取組予定

搬出(列状)間伐の有効性を理解していただくため、森林所有者への戸別訪問、国有林見学会等を実施し、ドローンを活用した現地踏査などの結果をもとにした施業提案、伐採後の結果等についての情報提供を行っていく。
また、森林施業の集約化や林地未利用材の有償化については、現状把握を進めるとともに森林室、森林組合と情報共有を図りながら実現を目指す。